

連載

80 在宅医療奮闘記

平成7年より
在宅を開始した

私の思い出

(医)東西会 千舟町クリニック院長
橋本 満義 (65歳・内科)

患者さんの起こす 思いもつかない驚くべき行動!

ある日、「先生、大変です。警察から電話です。某施設の入居者のA子さん(46歳・女性)が問題を起こしたようです」と、当院から私の携帯に緊急連絡がありました。Aさんは、いつも車椅子で移動をしなければならない体の不自



由な方でした。そして、認知力低下、昼夜逆転、精神障害、運動障害の症状がみられました。

話によると、Aさんはいつの間に、鍵のある場所を知っていたのでしょうか、スタッフルームに勝手に入り、ロッカーから金銭を拝借していたようです。そういえば、以前、コンビニへ買い物に出かけた際、商品を勝手に持ち帰ってしまい、問題になったことがあったと聞きました。確かにAさんには、認知症や精神障害などがありますが、もともとの性格のなせるわざなのでしょう、私たちの思いもつかない行動と能力を発揮されたようです。

残念ながら、今後、高齢者施設という集団生活

空間においては、「問題行動」といった事例も多く「老人の性」とともに避けては通れないのでしょう。

患者さんには、必要以上の罪は問えず、苦慮するところですが、施設経営者である理事長さんの一言で私は救われた思いがしました。「施設長以下、スタッフは何をしていたのですか?どんな患者さんも脱線した行動をとらせられないようにしなければなりません。一度ばかりか二度までとは…。いずれにしても、当施設の大切な患者さんなので…。」

この言葉は、私たちの魂に響く一言でした。また、素晴らしい勉強をする機会となり、一生忘れられない経験でもありました。

人間にはよく、悲しい性^{さが}と言うべきか、驚くべき行動がみられます。DNAによるいたずらなのでしょう。介護の現場では、人間の本性をさらけ出されてしまいます。

いずれにしても、医療・看護・介護サービスは、患者さんの全てをのみこんだ上で、間違いのない療養生活を送れるように、深層心理も含めた質の高いレベルを求められる時代となってきたのでしょう。

さらに、貧困とか健康リスクの放置の改善、セーフティーネットの構築は、最低限必要な基本理念のひとつです。

「お医者さんが来てくれる」

24時間・365日態勢で対応(松山市全域)

私たちは質の高い在宅医療・看護・介護を目指しています。



医師数 21名
(常勤6名、非常勤15名)

内科・外科専門医 18名
(国立がんセンター勤務歴有3名)

精神科専門医 2名
麻酔科専門医 1名
(ペインクリニック科)

**末期がん治療(緩和ケア)
相談室開設!**

Hyper Blood Viscosity (高血液粘度群)を科学する **臨床生命科学(体質・病態学、栄養学)研究所開設**
「地方創生健康長寿研究会」平成27年4月1日発足

機能強化型・有床 在宅療養支援診療所

(医)東西会 千舟町クリニック

松山市千舟町6-4-9 Tel:089-933-3788

<http://www.touzaikai.jp/>